

**令和5年度
第1回いわき市保健医療審議会
自殺対策協議部会**

議事録

いわき市保健所 地域保健課

令和5年度 第1回 いわき市保健医療審議会 自殺対策協議部会

1 日 時 令和5年9月1日（金） 午後2時00分～午後3時30分

2 場 所 いわき市総合保健福祉センター 3階 社会復帰会議室

3 出席者

委 員	矢本 聡	委 員	千葉 光平
委 員	勝島 聡一郎	委 員	阿部 智樹
委 員	草野 美保	委 員	吉野 敦広
委 員	篠原 清美	委 員	志賀 光博
委 員	小林 裕明	委 員	安藤 眞史

4 事務局職員

いわき市保健所	所長	新家 利一
	次長	小川 俊幸
保健所地域保健課	参事兼課長	小野 勝己
	指導保健技師兼精神保健係長	櫛田 淳子
	指導保健技師	篠山 絢子

5 議 事

(1) 報告事項

- ア 保健所地域保健課の今年度の取り組みについて
- イ 令和4年度の自殺対策推進に係る各課の取り組み状況について
- ウ 次期計画策定に向けた市民アンケート結果について
- エ 令和5年度関係団体等における取り組み状況について

(2) 協議事項

第2次いわき市自殺対策計画の骨子案について

(3) その他

6 会議の概要

(1) 報告事項

ア 保健所地域保健課の今年度の取り組みについて

発言者	内容
	<p style="text-align: center;">《事務局の報告に対し、質問・意見等なし》</p>

イ 令和4年度の自殺対策推進に係る各課の取り組み状況について

発言者	内容
A委員	<p>様々な調査結果から、10代20代の若い人ほど電話相談に対し否定的で、SNSでしか相談できない傾向があるとの結果が出ている。そのことを受け、相談機関は悩んでおり、SNSではしっかりと対応できないと否定的な意見もある一方で、相談してこないと困るとの意見もあり、折り合いがつかない。いわき市においても「福島県ライン相談」や「24時間子供SOSダイヤル」などSNSの活用がすすんでいると思うが、個人的には相談を受ける側として、初めての相談でSNSでは相談が難しいと考えている。</p> <p>まずはゲートキーパー事業で何か相談があったら必要な相談先につなぐようなところから始めればよいのではないかと思う。</p>
部会長	<p>SOSの出し方としてどういう方法があるのかと、SNSを活用していくことの課題があるのかということで事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>小中学校においては、いじめや友達関係で悩んでいるなどの相談先として、色々な相談窓口を複数紹介するのではなく、子ども向けにはここと分かりやすく周知啓発している。</p> <p>SOSの出し方教室では、中高生は友人に相談しても親や先生には相談しにくいいため、安全なSNSの相談先の周知が大事と考え、犯罪やトラブルに巻き込まれないように、公的な相談先につながるよう県のライン相談を紹介するなどしている。</p>

ウ 次期計画策定に向けた市民アンケート結果について

発 言 者	内 容
B委員	<p>アンケート結果から、相談先やゲートキーパーの認知度が微増及び微減しているが、報告アの1つ1つの事業内容は素晴らしいものだと思うが、その実施している事業やゲートキーパーについての周知に関しての事業計画はあるのか。また自殺対策計画上に盛り込まれているのか。なければ検討が必要ではないか。</p>
事務局	<p>現行計画において市民企業等への啓発周知として内容は盛り込まれてはいるが、ゲートキーパーをどのように周知していくか具体的なところまでは入っていない。そのため事業を展開しながら普及啓発を図っており、今年度は9月の自殺対策強化月間に、いわきFCと連携し、いわきFC公式キャラクターを印刷した啓発資材を、働き盛り世代が多いと考えられるいわきFCホームゲーム来場者に対し配布しゲートキーパーの普及啓発を図ったところである。</p>
C委員	<p>市民アンケートの結果を見ると、回収率が一番低い青年期において一番自殺念慮が高くかつ相談窓口を知っており、半分矛盾するような結果。高齢者は回答率が高いが、自殺念慮があまり高くなく、相談窓口もあまり知らないという青年期とは逆になっている。</p> <p>要するに青年期は、もしかしたら本当に1回でも自殺を考えたことがある人は、相談窓口を知ることになり、ほとんどのそれ以外の人は自殺そのものに対し関心を持っていない事の現れが逆に出ていると思った。</p> <p>今回の調査そのものが普及啓発になればよいと考える。</p> <p>また、青年期の人たちに対し、どのようにメッセージを送っていくか重要。青年期は身近な年齢の人に相談するが、その年齢の人が一番自殺についての正しい知識情報がないため、次期計画において、この10代後半から20代位の人達にどのように自殺についての情報を提供できるのかが課題と市民アンケート結果を見ての感想を持った。</p>

(2) 協議事項

第2次いわき市自殺対策計画の骨子案について

発 言 者	内 容
A委員	女性の自殺対策の推進が示されているが、女性の自殺者数の方が圧倒的に多くなっているのか。
事務局	<p>全国の自殺者数は、男性の方が多いは変わらないが、男性の自殺者数、自殺率は年々下がっている一方で、コロナ禍において、女性は2年連続自殺率が上がっている状況があり、国の自殺対策総合大綱において、女性の自殺対策を更に推進すると示された。</p> <p>本市の自殺者数においても、男性の自殺者数が割合として多いのは変わらないが、令和2年から令和3年にかけて女性の自殺者数が増加していることから、次期計画に女性の自殺対策を基本施策に追加する方向でいる。</p>
E委員	無職者・生活困窮者の自殺は関連性があるため、生活困窮対策について、具体的にどのようなものを次期計画に掲載するのか。
事務局	<p>いわき市の自殺者の傾向として示される自殺プロフィールを基に重点施策を検討していくことになるが、ここ数年の傾向に大きな変化は見られていないため、生活困窮者は次期自殺計画においても反映する方向になると思われる。</p> <p>具体的な施策については、各課の取組みを踏まえ計画に位置付けしていくことを考えているため、現時点ではまだ具体的な事業の掲載については決まっていない状況。</p>
E委員	<p>生活困窮者への支援の仕方は色々あると思う。生活資金の支給や、物資で支援する等いろいろあると思う。子育て世代に対しては市の方でお金を出しているの、生活困窮者に対する支援の仕方をもう少し明確にしないと、生活苦からの自殺が多いと考える。まずひきこもり、うつ病になり、人と接しなくなり、生活ができなくなり、自殺しようと思えることが自殺の要因と考える。</p> <p>女性の自殺は、夫婦間の不和、家庭問題の増加があり増加していると感じている。</p> <p>全国では、小中高生の自殺者の自殺者数が増えている。6月と9</p>

	<p>月が多いと言われており、6月は入学し数か月経過するも学校生活に慣れず自殺する。9月は、夏休みが終わり、登校しなければならないが学校に来れず不登校となり自殺すると言われてしている。いわき市の20歳未満の小中高校生の自殺者数は公表できないのか。</p>
事務局	<p>自殺者数を公表するにあたっては、少ない数字は個人を特定する数字になるため（自死遺族への要配慮）、公表できない数字があることは確かだが、自殺対策を検討する場においては公表が可能な数字でもある。</p> <p>警察統計と呼ばれる厚労省がネット上で公表しているいわき市の20歳未満の自殺者数の推移としては、令和4年2人、令和3年0人、令和2年2人が自殺で亡くなっている状況です。</p>
E委員	<p>地元地区の小中学校の校長先生との懇談会があり、ヤングケアラーや自殺の問題について触れたいと思っている。不登校の生徒をしっかりと示してもらえれば、見守りや異変への気づきへの連絡ができると考えているが、自殺の現状や情報を知り、必要な対応をしていきたいと思う。そのため、しっかりとしたデータが欲しいと思う。</p>
事務局	<p>今後も、自殺対策に取り組む上で必要な情報を共有しながら提供できるデータは示していきたい。</p>
A委員	<p>施策の方向性『(6)自殺者等の名誉及び生活の平穩に配慮』は大変ではあるが、自殺者の遺族の心労や想いはとても重いため、遺族の対応は大変だと思うが、救われる遺族がいると思うので、是非取り組んで欲しい。</p>
部会長	<p>支援者の支援を次期計画に追加する理由、背景は何かあるのか。</p>
事務局	<p>委員からの報告で、相談対応する職員もストレスを抱えており、心のケアが大事との意見もあったが、自殺総合対策大綱の重点施策において「4自殺対策に関わる人材の確保、養成及び資質の向上を図る」とされており、自殺対策従事者への心のケアが盛り込まれていることから、現行計画においても方向性として文章は記載されていたが、新たに項目として盛り込む考えでいる。</p>